

高齢者施設の感染者に必要な医療を 名古屋市・愛知県に緊急要請



1月31日、社保協地域医療委員会と愛知県医労連共同で、介護施設で利用者が感染しても入院できず多数亡くなっている問題で、「高齢者施設での感染者に必要な医療の提供を求める」緊急要請書を名古屋市と愛知県に提出、名古屋市健康福祉局と1時間懇談を行いました。

↑名古屋市のコロナ対策室・介護保険課から5人が対応

当日の懇談では、①名古屋市の入院適応となる「中等症2以上」の基準の見直しを求めました。「中等症2以上」の基準により入院治療がされず、感染した高齢者が食事摂取できずに衰弱し亡くなっています。②施設で療養といっても介護施設は治療ができる環境ではなく隔離も困難であることから「留め置き」状態の改善を求めました。

市は、「医療資源には限りがあり軽症者や入院後初期治療が終わったら施設での療養をお願いしている。通常医療とコロナ医療の両立させるために。今年度になり愛知の病床フェーズが「2」、607床。昨年6波のときは緊急フェーズのとき病床は増え今よりも多かった。この時は一般医療も制限した。病床全体、一般医療の制限をかけない、県も同様の考え。限られた病床を必要な方に使っていくので軽症者は施設にこれまでもお願いした。今後5類となると、コロナ病床が増えることはない。既存の資源を有効に使って行きたい」。

また、「臨時医療施設は県の指標の中で、最大確保80%超過の利用率を超えたら臨時医療施設の設置を定めている。県と調整しながら宿泊療養施設も市民が最大限入所できるように対応していく。市としては県と連携し臨時の医療施設など体制強化に取り組んでいく」との回答。

要請団からは、名古屋市内では、R4年7月1日～R4年12月18日の間に1施設あたり10名以上新型コロナ患者が発生した市内施設数は305件あり、内特別養護老人ホーム50件、その他の高齢者施設156件と206件で7割に上る。また、第8波の感染拡大で救急車が来ても搬送先がすぐに見つからない困難事案が急増し、そのしわ寄せが高齢施設に大きく影響しています。第8波では過去最大1週間で316件の搬送困難事例が発生しています。救急搬送されない「陽性者」が施設内にとどまりクラスター発生の原因にもなる。いわば高齢者の治療・医療を受ける権利が阻害され放置されているに等しい。緊急に改善が必要と求めました。

さらに、③愛知県がコロナ専門病院を3月末で閉鎖することは入院先がない状況を鑑み責任放棄であり中止するよう県に働きかけること、④県の介護職の応援派遣事業は感染拡大期には機能しておらず抜本的な支援対策・体制の確保、臨時医療施設の設置等を求めました。

市は、「入院基準について『中等症②』はSpO₂:93%以下だが、入院が必要かの判断はそこだけではない。ただ、病床がひっ迫していると施設での療養をお願いせざるをえないことがある」と回答。コロナ専門病院の閉鎖については、「医療体制は愛知県が所管。県の方針に従わざるをえない状況だが、要請があったことは県に伝える」と応じました。

介護保険課の主幹は「介護施設は生活の場であり、施設で療養といっても医療体制は十分ではな

いのは理解できる。感染発生時の衛生用品や緊急時の人材確保費用などかかりまし経費の補助を行っている」など、市としての対策内容を紹介しました。

世間的にはコロナ終息に向けた世論が広まっており、一方でクラスター多発、高齢者死亡が増えています。世間の認識と現実のはざまで、家族の理解が得られず現場職員が苦しんでいます。対策は緩めずに強化を、発信もしっかりしてほしい。5 類になった時の「医療現場」、行動制限のない中で「感染」拡大が懸念されるがどのような事態にも対応できるよう、対策の抜本強化を求め、懇談を終了しました。

※出席は以下のみなさんです。

名古屋市：健康福祉局高齢福祉部介護保険課長 竹中、(事業所指導)主幹 加藤純一、健康福祉局コロナ症対策部(新型コロナウイルス感染症対策担当)主幹 米田善洋、蜂谷、(軽症者等の宿泊療養施設担当)主幹 青木直人

社保協：愛知社保協事務局長 小松民子、愛労連議長 西尾美沙子、愛知県医労連書記長 矢野彩子、書記次長 池田幹人、名古屋市職労委員長 津田康裕

愛知県にも当日同様の「要請書を」提出しましたが、以下の回答にとどまっています。

愛知県感染症対策課です。

本日御持参いただいた要請書について、関連部署と協議の上で、改めてご連絡さしあげるとお伝えしておりました。

高齢者施設を管理している部署からは、

- ・来年度以降の国の方針が明確に示されていない。
- ・関係者のスケジュール調整及び場所の確保が困難である。

との回答がありましたので、意見交換会は行わず、いただいた要請書について関係課において情報共有をさせていただきます。以上



尾形けいこ候補が健闘・みなさんのご支援に感謝します

2023年2月7日 革新県政の会

2月5日投開票の愛知県知事選挙で、革新県政の会も参加した「みんなで創る安心の未来」から立候補した、尾形けいこ候補は、勝利できませんでしたが、健闘しました。

【選挙結果】投票率 36.43%

尾形けいこ 251,263 票(得票率 11.68%)

当 大村 秀章 1,452,648 票(得票率 67.53%)

今回の知事選挙は、6人の候補者が乱立するなか、広範な市民と野党が共闘した尾形候補と、現職の大村氏を支えるオール与党の対決の構図となりました。市民運動に参加する個人と革新県政の会が尾形候補の選挙母体「みんなで創る安心の未来」を結成しました。尾形候補は、政党では日本共産党と緑の党グリーンズジャパンが推薦、社民党と新社会党が支持し、れいわ新選組代表山本太郎氏が個人推薦、団体では市民がつながる会・愛知 7 区、だらっと憲法カフェなどから推薦を受け、原発ゼロ、設楽ダムの建設中止を求める会、老朽原発 40 年廃炉訴訟などに取り組む多くの市民から支援が得られました。

「みんなで創る安心の未来」は、SNS チームをつくり、ホームページ、ツイッター、フェイスブック、インスタグラム、ティックトックのツールを活用して若者にも尾形候補の政策を伝え、行動を紹介することにチャレンジしました。

革新県政の会は、コロナ禍や物価高から県民のいのち暮らしを第一にする県政の実現、軍拡と増税をすすめる岸田自公政権に審判を下す重要な選挙と位置づけました。尾形候補との懇談

を通じて、各団体の要求と現場の実態を知らせ、保育の定数改善、医療、ケア労働の処遇改善、教師の確保、消費税減税、インボイス制度反対、憲法を生かした平和外交など知事選挙の重点政策に押し上げました。また学習資料・動画、シールアンケートなどで知事選挙の意義や要求について関心を高めることを重視して取り組んできました。

尾形候補は「ストップ気候危機・ジェンダー平等・安心の未来」をスローガンに、「県民の明日の未来に必要な政策は何か」を問い、「光熱費ゼロ住宅など脱炭素産業 NO1の県政を実現して雇用を増やし、愛知の豊かな財政を医療、教育、子育ての充実に使う」「知事として政府に最賃引き上げをきっぱり要求する」の訴えや、「女性はすでに頑張っており、適正な評価で賃上げなど処遇の改善を」の訴えは多くの労働者や県民の共感を広げました。この尾形候補の訴えは、県政のあり方に一石を投じるものとなりました。

大村候補は、産業首都あいち、リニア大交流圏、ジブリパークを前面にアピールしました。連合愛知と自民県連、公明、立憲民主、国民民主の推薦を受けて、`圧勝、という結果になりましたが、前回の得票177万から30万票以上減りました。

一方で、投票率は前回の35.51%から微増という結果におわり、尾形候補の魅力を広範な県民に伝える点で力不足だったことを指摘せざるを得ません。また、県民の政治不信がなお大きいことも明らかになりました。

今回、「みんなで創る安心の未来」に参加して県知事選挙をたたかったことは、新たなつながりと運動の発展の可能性を示したと考えます。革新県政の会は、今回の選挙で大きな要求となった課題の実現をめざし、引き続き奮闘することを決意します。

2月8日新署名スタート、ツイッターデモ 拡散してください！

2月8日(水)全国代表者会議後、18時より新署名スタート行動を行います。全国で「軍事費の拡大より社会保障の拡充を」の声を大きく広げていきましょう。

【新署名】軍事費の拡大より社会保障の拡充を求める請願署名

<https://shahokyo.jp/20230208-2/>

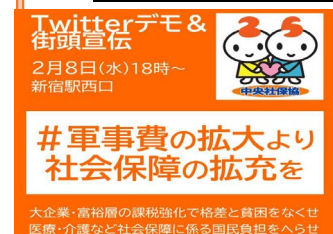
中央社保協 Twitter 告知を拡散ください

(https://twitter.com/chuo_shahokyo/status/1622463570687700992?s=20&t=InmCVTtdeQckB-O8N0CD2Q)

新署名スタート Twitter デモ&街頭宣伝

日時:2月8日(水)18時スタート 場所:新宿駅西口

タグ: #軍事費の拡大より社会保障の拡充を、 #医療や介護など社会保障に係る国民負担を減らせ、 #大企業や富裕層の課税強化で格差と貧困をなくせ



許せない！！

介護保険制度「崩壊」

～介護保険制度の改善方向を考える～

2023年2月23日（祝・木）10：30～12：00

労働会館 東館ホール
(ZOOM併用)

参加費：無料 (どなたでも参加OK)

講師



花房 ふみ代 さん

公益社団法人認知症の人と家族の会常任理事
厚生労働省社会保障審議会介護保険部会委員

政府の社会保障削減政策により、介護現場は悲鳴を上げています。そして、いま、利用料2割負担の方の上限引き下げ、要介護1・2のサービス削減、ケアプランの有料化、福祉用具の貸与から購入に変更など、負担増と給付削減を検討しています。このまま進めば、保険って介護なしの介護保険制度が崩壊へ突き進んでしまいます。

社会保障審議会委員である花房ふみ代さんにお話いただき、介護保険制度の改善方向をみんなで議論するきっかけになればと企画いたしました。

Zoomで参加される方

Zoomで参加されるを希望される方は、事前登録が必要となります。下記URL、もしくはQRコードより行ってください。

<https://onl.sc/GxNF5sM>



主催 愛知県社会保障推進協議会 (愛知社保協) 介護委員会

第24回あいち社会保障学校

～大軍拡・大増税、社会保障大破壊 NOI 国民のいのち・くらしを守ろう～

①記念講演

「やさしく強い経済へ 逆転の成長戦略とは」(仮題)



講師：大門 実紀史 氏

東京都京都市生まれの66歳。東京士業一統労働組合委員長、建設労働組合青都連副会長特別代表議長を歴任。2001年4月、日本共産党を労働政策委員に当選、以降4期連続再選したが2022年に落選。「国向きっての経済」とも評されていた。一貫して新自由主義や「グローバリズムを批判し、「社会的公正 (Social justice) の必要性を説いている。趣味は、山歩き、読書、絵筆収集など。

②2022年自治体キャラバンまとめの報告

10月実施の結果、懇談内容・アンケートの特徴などを報告します

とき 2月23日(木・休) <参加費:無料>

13時開場 13:30~16:30

ところ 労働会館東館ホール&リモート

住所: 名古屋市熱田区次町9-1

交通: 地下鉄(金山駅)下車、東口より徒歩10分

地図: <https://roren.net/roudokaikan/map.htm>

リモート参加について

Zoomを使用してリモート参加出来ます。リモートに参加する場合は、事前登録が必要です。下記のアドレスまたはQRコードより行ってください。

事前登録アドレス

<https://onl.sc/NleePDg>



共催

愛知県社会保障推進協議会(愛知社保協) ■連絡先: 名古屋市熱田区次町9番7号 労働会館東館

愛知県労働組合総連合(愛労連)

電話 052(88)9921(出番線) 052(87)8421 (受付線)

参加申込み<現地参加の場合は、下記にご記入していただき、FAXにてお申し込みください>